

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2871000473		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	芦屋ケアセンターそよ風		
所在地	兵庫県芦屋市松浜町13-18		
自己評価作成日	平成31年3月1日	評価結果市町村受理日	令和1年8月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成31年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣に公園があり、提携している内科も近く、周辺環境が良いです。臨時の受診や定期的な受診には、ご家族への負担を考慮し、職員が付添うように努めています。経験のある看護師が長く勤めているため、医療機関との連携もとりやすいです。看護師に限らず、長く勤めているスタッフが多いことも魅力です。規模の大きな会社が運営している為、介護に関する情報を全国から得ることができ、また災害時や緊急時には、他の施設からの協力を得ることができます。職員の研修も各地で行われており、積極的に参加するようにしています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くには海浜公園・テニスコート等があり、自然に恵まれた閑静な住宅地にある。ユニット毎に手づくりの調理を行い、職員も食卓を囲み家庭的な雰囲気づくりに努めています。訪問診療・訪問看護体制が整備されており、また、希望するかかりつけ医受診時は基本的に職員も同行し、医療面で安心できる支援に努めている。事業所での納涼祭やクリスマス会に地域の人を招き、歌・楽器演奏等のボランティアの来訪、トライやるウィークの受け入れ等、地域交流・地域貢献に努め、利用者が楽しむ機会ともなっている。介護計画作成時には、利用者・家族の希望、関係者の意見・助言を事前に聴きとり、また、職員の意見を集約し、利用者個々の現状に応じた支援に取り組んでいる。職員の定着もよい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念「世界一の幸せ創造企業を目指す」を実践する為、一人一人の幸せについて考えています。	事業所独自の理念・基本方針を策定し、理念に「地域に開かれ、助け合えるグループホームになる」という地域密着型サービスの意義・役割を明文化している。最近、理念を見直して変更し、次回の全体会議時で管理者が理念の内容を分かりやすく説明し、職員への共有と理解を深める予定である。	理念を玄関・スタッフルーム等に掲示する等、日常的に理念が共有できる工夫が望まれる。また、理念の実践に向けユニット目標を設定して職員も参加して取り組むなど、理念の実践に向けて具体的に取り組む仕組みづくりが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り等、地域のイベントにできる限り参加しています。また、近隣住民や敬老会の方々をはじめ、地域の方からお声をかけて頂く機会は増えつつあります。	自治会との関係を密にし、相互協力に努めている。地域の祭り見物、だんじりの立ち寄り等を継続している。買い物・外食等では地域の社会資源を活用し、事業所での納涼祭やクリスマス会の際に地域の人達に案内を出し参加している。歌・楽器演奏等のボランティアの来訪があり、利用者の楽しみとなっている。また、市と福祉避難所として協定を結んでおり、運営推進会議を通じて地域に情報を発信している。トライやるウイークを受け入れ、学校教育への協力を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	緊急時の福祉避難所として、事業所を利用して頂きます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度のペースで開催を呼びかけ、自治会長・民生委員・行政・家族等に参加して頂いています。近況や以前のご提言に対する進捗の報告、新たなご提言を頂いています。	利用者・家族代表、市職員、地域包括支援センター職員、地域代表等をメンバーとし、2ヶ月に1回開催している。会議では利用者や職員の状況、研修・行事・事故対応等事業所の取り組みをレジュメを配布して報告し、前回会議での要望等に対する振り返りを行っている。市から感染症情報の提供を受け、適切な感染予防に取り組む等、サービスの向上に活かしている。議事録は職員へ回覧し、情報共有確認表で周知状況を確認するとともに、玄関に設置して公開している。	構成メンバーとして、知見を有する者を選任することが期待される。

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの空き情報と利用者状況を報告しています。また、運営推進会議にも毎月参加して頂いています。	市職員・地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加し、会議への参加を通して、事業所の状況や取組みを伝え連携している。市が派遣する介護相談員の受け入れを通して、市と連携している。地域包括支援センター職員も参加する「グループホーム連絡会」に参加し、事業所間の課題等について検討し連携を図っている。公的な支援を必要とする利用者について、ケースワーカーと協働し支援している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設置しており、また、職員には研修を通じて理解を深めています。「身体拘束等の適正化のための指針」を定め、いつでも閲覧できる状態にあります。身体拘束は現状ありません。	身体拘束適正化指針を整備している。方針ついて重要事項説明書に明記して家族に説明し、拘束をしないケアを実践している。月1回、身体拘束適正化委員会を開催し適正化に向け検討し、議事録の回覧により職員に周知している。研修計画に沿って、「指針について」「身体拘束・虐待防止」研修を全体会議時に実施し、受講者はアンケート方式の研修報告書を提出している。参加できなかった職員にも、資料配布と議事録の回覧により周知を図っている。玄関の開閉は暗証番号による操作が必要であるが、閉塞感を感じないよう職員が付き添って外出している。	全体会議議事録に、研修実施に関する事項を記載することが望まれる。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員を設置しており、虐待が出ない様に話し合い、毎月の全体会議にて注意喚起しています。	上記の研修で、高齢者虐待防止について学ぶ機会を持っている。毎月の全体会議でも、随時注意喚起を行っている。センター長・管理者が人事考課時に個人面談を行い、また、日常的にも相談しやすい関係づくりに努め、シフト調整・懇親会の開催・認知症ケア研修等で、職員の悩みやストレス等が利用者へのケアに影響を与えないよう努めている。入浴時等には利用者の身体状況に留意し、虐待が見逃されないよう注意を払い防止に努めている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を実施し、成年後見制度についての理解を深めています。	管理者は、管理者研修等で権利擁護に関する制度について学ぶ機会を確保しているが、全職員が学ぶ機会を設けるには至っていない。成年後見制度を利用している人があり、後見人来訪時の状況報告や金銭管理書類の提供等の協力支援を行っている。新たに制度利用の必要性や家族等から相談があれば、実務面での経験も活かしながら支援できる体制がある。	権利擁護に関する制度について、職員が一定レベルの知識を得られる研修機会を設けることが望まれる。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の契約時に重要事項説明書等を使い、費用やリスクについて説明し、時間をかけて質問を受け応えし、納得した形での入居を心掛けております。入居後も質問は随時受け付けております。	契約申し込み時に、パンフレットでサービス内容を説明し、事前に重要事項説明書等を提供するケースもある。契約時にはセンター長が、重要事項説明書の内容等を実例を用いて説明し、理解と納得を得て契約している。費用・リスク等については詳しく説明し、誤解や不安の解消に努めている。契約内容を改定する時は、基本的には書面で同意を得ているが、変更の内容に応じて適切に対応している。終了時には、契約書の条項に沿って、情報提供を行う等円滑な移行に配慮した支援を行っている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を頂いたり、家族の来訪時に要望などがあれば聞いて、そのニーズに応えられるように取り組んでいます。また運営推進会議のお知らせに、参加の可否と共に意見を記入できる欄を設け意見を募っています。	家族アンケートを実施するとともに、事業所のクリスマス会・夏祭りでは、利用者・家族と食事を共にしながら意見等の把握に努めている。また運営推進会議の案内文に、意見欄を設け意見を募っている。家族来訪時に近況を報告し、要望や意見などが出やすいよう取り組んでいる。利用者・家族の運営推進会議への参加、また、介護相談員の受け入れにより、利用者・家族が外部者へ意見等を表せる機会を設けている。環境整備について等、家族からの意見・提案等を運営に反映させている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・リーダー会議にて話を聞く様にしており、意見を反映させています。また随時の面談で意見を聞いています。	管理者は、全体会議・リーダ会議・委員会等に参加し、職員の意見・提案を聞く機会を設けている。人事考課時・契約更改時等に個人面談を行い、意見や提案を聴いている。管理者も日々上位者と連絡を取り合い、また、個人面談の機会や、法人の事業部会議で、管理者や職員の意見等を表わす仕組みがある。イベント開催や外食機会の拡大に努める等、職員からの意見・提案等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課・契約更改制度を使って、面談等を行い、話を聞いて、改善できるところは改善するように取り組んでいます。また、随時面談を行なっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の研修、発表のルールを定め、主体的に学べるように取り組んでいます。センター外の研修にも時間を確保し、できる限り参加を促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の中での交流や研修の機会があれば、参加するように促しています。社内ではGH協議会、社外とはGH連絡会に参加して意見交換を行なっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	はじめのアセスメントでしっかりと情報収集をして、本人の困っている事・家族の困っていること等を掴み、サービス提供しています。入居当初は、ご本人の話を伺う時間を十分確保するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応の重要性を理解し、入居前に情報収集しております。入居後も、ご相談は随時受け付け、入居当初から、代表者をはじめ職員も御家族と連絡を密にとるようにしています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントで知り得たニーズを満たすことを第一とし、それに加えて通院の付き添いや、訪問マッサージの提案等、介護計画に記載のないサービスの提供もしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は食事を共にし、会話をする時間が十分とれるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段より、家族様には日々の状態報告を行い、情報を共有しお互いに支え合えるように取り組んでいます。事業所でカバーしきれないところは、家族様にもご協力を頂いています。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	もともと住んでいた所からは少し離れておりますが、行ける範囲で外出しています。来客の方にも、いつでもおいで頂けるようお声をかけています。手紙等での交流が続いている方もおられます。	馴染みの人や場所について入居前の面談で把握した情報は、「実態調査表」に記録している。家族・友人等馴染みの人の来訪時には、居室・相談室・会議室等を提供してゆっくり過ごせるように支援している。また、芦屋川公園・銀行・喫茶店等に個別の外出支援を行い、馴染みの場所との関係継続の支援に努めている。家族にも馴染みの場所への外出を依頼し、必要に応じて車イスの準備等で支援している。年賀状等のやり取りの支援にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	周りの利用者同士で交流が持てるように、間に職員が入り、会話が進むように支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、近隣に住んでおられる方には、近況を聞いたり、何か困ったことがあればご相談して頂く様に声を掛けています。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いにより添えるように、普段より関わりを増やし、ニーズの把握に努めています。	入居前の面談で把握した思いや意向は、「実態調査表」に、入居後に把握した内容は「支援経過記録」に記録として残している。意思の疎通が難しい利用者は、以前に把握した情報を踏まえて、日頃の関わりの中で表情や反応等から思いや意向を汲み取るように努めている。把握した思いや意向は本人の立場で検討し、支援方法や介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時・家族来訪時に聞き取りを行い、少しでも多くの情報収集に努めています。普段の会話からも、ご本人の来歴を聞き取るよう努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3ヶ月おきにモニタリングを行い、状態把握に努めています。毎日の御様子も、職員間で共有できるようにノートで連絡を取り合っています。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、現状把握と共に情報共有し、介護計画を作成しています。また、他職種・家族にも聞き取りを行い作成しています。	実態調査表、アセスメント表概要を基に課題分析を行って初回の計画作成し、その後は認定期間に合わせながら、基本的には概ね6ヶ月ごとに計画を見直している。計画の意識づけと、日々の実施状況を計画に沿って記録するため、現行の介護計画書を介護支援経過記録ファイルに挟み込んでいる。サービス内容ごとに#を付し、#項目ごとにモニタリング・評価を実施している。介護計画の見直し時には、アセスメント表概要で再アセスメントを行い、モニタリング結果と共に、担当者会議で検討している。本人・家族等の意向や、看護師・訪問等関係者の意見は前もって把握し、担当者会議議事録に記載している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	普段より気づきがあれば、ヒヤリハット・ニヤリハットシートに記入し、職員同士でも情報の共有化を図っています。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の付き添いや、入所時の荷物の搬入のお手伝い、書類作成のお手伝い等、可能な限りでサービスを提供しています。		
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お祭り等地域のイベントなどにも積極的に参加して頂き、安全で豊かな毎日を送って頂くように心掛けています。近隣の住民の方のご協力も頂けるよう、事業所からも周囲に働きかけています。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人と御家族の希望を優先して、かかりつけ医を決定しています。かかりつけ医が遠方にある場合や、往診の有無等、ご家族と相談し、双方の合意を得た上で決定しています。	契約時に利用者・家族の希望のかかりつけ医を確認し、希望に沿った受診支援を行っている。希望に応じて、協力医療機関の訪問診療や、入居前のかかりつけ医の往診を受けている。他科受診は、基本的にかかりつけ医の指示を受け、通院介助は事業所が行うことを契約時に説明し家族の同行を依頼している。訪問診療での事前連絡事項や指示等は「訪問診療記録」に記録として残すとともに、利用者ごとの「医療機関受診記録」にも記載して情報の見落としがないよう共有に努めている。希望者には、歯科の訪問診療を受けることができる。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師や訪問看護師と随時連携を行い、必要であればかかりつけ医にも連絡を行い、連携しています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを提供し、情報を提供しています。また、退院時には地域連携室の方々と連携を取って、速やかに対応しています。	入院時には、管理者が付き添い「介護サマリー」「アセスメント表概要」「介護支援経過記録」等で、入院先に情報を提供している。入院中は面会に行き、家族と連携しながら、病院関係者と情報交換し早期退院に向けて支援している。退院前に、開催があればカンファレンスに参加し、入院中に把握した情報は「医療機関受診記録」記載し、職員間で情報共有に努めている。退院時には「看護サマリー」の提供を受け、介護計画を変更して事業所での支援に活かしている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	普段より、身体状況を報告したり、看取りについての話し合いを重ねています。重度化した際は改めて説明し、必要であればカンファレンスを行ない方針や対応について共有するよう努めています。	契約時に、指針をもとに、重度化・終末期に向けた方針と、出来ること出来ないことを説明し意向確認を行い同意を得ている。重度化を迎えた段階で、かかりつけ医から説明を受け、カンファレンスを開催し家族と支援方針について話し合っている。話し合った内容は、介護支援経過記録・担当者会議議事録に記載として残し、介護計画の見直しにつなげている。看取り時には、かかりつけ医、事業所看護師・訪問看護師等チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については入職時より指導しており、研修も行っています。また、事故発生時や事故になり得る状況であった時(ヒヤリ)、報告しカンファレンスを行ない、対応について話し合います。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や研修で対応を周知しています。災害時の避難場所についても周知を図るとともに、普段より近隣の方にお声をかけ、災害時に協力が得やすいように、努めています。他にも地域の訓練に参加しています。	今年度は、消防署員も参加して火災時の総合訓練を1回実施しているが、記録として確認するには至っていない。災害時は近隣の独身寮から応援・協力を得られる体制を整えている。管理者が備蓄責任者となり、各フロアに水・レトルト食品・排せつ用品等、災害時に必要な物品を備蓄している。また、市と福祉避難所としての協定を結んでおり、運営推進会議で情報提供している。	年2回、夜間帯想定を含む実践的な訓練を実施し、訓練に参加出来なかった職員へも訓練内容の周知を図ることが望まれる。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の観点から、何気ない声掛けが相手にどの様に受け取られるかを考えるように指導しています。また、事業所内外の研修を通じて接遇についても理解を深めています。	研修計画に沿って、「個人情報保護」について研修を実施し、プライバシーの確保や個人情報の保護について学んでいる。日ごろのケアで気になる言葉かけや対応があれば、管理者・リーダー等が注意を促し、全体会議でも話し合い、意識向上に努めている。個人記録類はスタッフルームの鍵つきロッカーで保管し、個人情報の適正な管理に努めている。パンフレットや掲示等の写真使用については、家族から口頭で同意を得ている。職員の守秘義務についても、入社時の誓約書で周知を図っている。	写真使用について、書面で同意を得てはどうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に決定して頂ける様な声掛けを行うようにしています。夜間でも、お話を伺います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで過ごして頂けるように配慮して、対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人で選んで頂ける方には選んで頂き、難しい方に関しては、本人に合った服装を意識しています。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方に関しては可能な限り行なって頂いています。感謝のお声かけも欠かしません。	各ユニットで献立表を作成し、献立に沿って食材が届けられ、利用者の状況に応じた食事形態にも対応しながら手作りの食事を提供している。野菜のカット・食器洗い等、利用者の好みや得意を活かせるよう支援している。ユニットごとに、出前や旬の食材を活かした行事食の機会も設け、利用者がより食事を楽しむことのできるよう努めている。職員も利用者と食事を共にして、家庭的な雰囲気づくりに努めている。時には、家族も同伴して外食や喫茶を楽しむ機会を設けている。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第	三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人にあった食事形態を考え、適宜変更しています。また、チェック表等で一日のバランスを確認しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行なっています。ご本人で行なって頂く場合でも、見守り後、職員が不十分な箇所をケアさせて頂いています。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの自己排泄が出来るように支援しています。また、排泄パターンを記録し把握に努めています。	基本的には、昼間はトイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行い、グループホーム経過表に排泄状況を記載している。状態に変化があれば、現状に即した介助方法や適切な排泄用品の使用をユニット内で検討し、申し送りノートで共有している。タイミングに合わせたトイレ誘導を行い、排せつ用品の使用を減らすよう努めている。個別に誘導時の声かけを工夫し、プライバシーや羞恥心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日に水分を1000CC以上飲んで頂けるよう、水分量の把握に努め、こまめに水分提供をしています。また適度な運動・マッサージを行い、自己排泄をして頂けるように支援しています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り本人の希望に添えるようにしています。午前・午後や日程を変更することもあります。	グループホーム経過表で入浴状況を把握し、基本的には週2回以上、一人ずつ更湯にして、個浴で入浴を支援している。利用者の希望や体調に応じて、足浴やシャワー浴も活用している。可能な限り同性で対応し、入浴を好まない利用者には、職員や時間の変更、声かけの工夫等、個々に応じた支援に努めている。入浴剤の使用等で、入浴をより楽しむことができるよう支援している。	

芦屋ケアセンターそよ風

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調を考慮して、臥床して頂いたり、食事時間をずらしたりと工夫して、休息して頂けるようにしています。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関して、最後まで飲み終わったかの確認を怠らない様になっています。また、お薬情報をすぐに確認できるようにファイル保管し、効用などの把握に努めています。		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	普段の会話やアセスメントを通じて本人の嗜好等を把握し、したいことをして頂けるように努めています。		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人・家族様の希望に沿って、出来るだけ外出するよう努めています。散歩に関するご家族の要望は多いですが、十分な時間を確保できない事も多く、その場合はご家族の協力も頂いています。	利用者の状況・希望、天候等に応じて、散歩や事業所前のベンチで外気浴を楽しんだり、個別支援として、買い物・喫茶・外食等戸外に出かけられるよう努めている。初詣・花見等で季節を感じる外出機会も設けている。車イス使用の利用者も、車イス対応車等を使用して、利用者の状況に応じた移動に配慮しながらドライブを兼ねた外出支援に努めている。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理が可能な方は、高額にならない程度で、ご自身で管理して頂いています。管理が難しい方に関しては、事業所で管理しています。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙の希望があれば、行なって頂いています。相手様にも出来るだけご協力頂くようお伝えしています。		

芦屋ケアセンターそよ風

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気を出しています。利用者や家族様が作成した装飾を配置したり、季節の花を花瓶に生けたり工夫しています。	事業所前の花壇にはパンジー等が植栽され、ゆずが実をつけ、ベンチで外気浴ができるスペースがある。各ユニットの共用空間には、テーブル席の他、ソファが適所に配置され、畳のスペースも設けられ、利用者が思い思いに過ごせるよう配慮している。キッチンからの調理の音や匂い、利用者も洗濯ものたたみ等に参加し、生活感が感じられる。	各ユニットの共用空間に季節感を取り入れて、利用者が季節を感じ居心地よく過ごせるような工夫が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方同士でお話しされる様に、食事の座席やリビングのソファの配置に配慮しています。職員も随時お声をかけます。	/	/
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、家族様と相談のうえ、ご自身のなじみの物を持ち込んで頂くよう、お声をかけさせて頂いています。	各居室に、ベッド・カウンター・クローゼット等が備え付けられている。使い慣れたタンス・イス等の家具類や寝具、テレビ・時計・写真など馴染みのものが持ち込まれており、配置には利用者の動線に配慮した安全な環境作りを支援している。居室担当職員が、家族と連携を取りながら、環境整備を行っている。入り口には利用者の写真等を飾り、部屋間違いがないように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることと出来ない事の把握に努めて、自立できる場所は継続して出来るように意識しています。	/	/